

# 「そして・そうして・それから」の意味機能

——置き換えから見た機能の相違——

竹内直也

## 1. はじめに

森田(1989)をはじめとして、「そして」は「そうして」の短縮形とされ、辞書の意味記述において、「そして」と「そうして」は全く同じ意味とされている。確かに通時的には、「そして」の発生は「そうして」からの転化であり、元来その意味は同じものであったと考えられる。現代語においても、確かに(1)の例では言い換えによる意味の違いを見いだすことはできない。しかし、(2)の例では言い換えることで意味が異なり、(3)になると置き換えることは難しい。

(1) いづみは一途に丸岡に尽くしたかったのだ。{そうして/そして} 丸岡に画文帯神獸鏡の出土を「予言」した。(箸)<sup>1</sup>

(2) 「一杯やんな」「もう一杯どうだ」{そうして/そして} 次第に酒量は増え、いつとはなしに日に五合ほど呑めるようになった。(精)

(3) [昔話の最後で] {そうして/?そして} 二人はいつまでも幸せに暮らしました。

(1) では置き換えることによる違いを見いだせないが、(2)は「そして」を用いると場面の転換を喚起し、「そうして」では「その結果」というニュアンスになる。そして(3)では「そして」を用いると昔話の結末としてはやや不自然な感じを受ける。これらの例に現れる違いはどのようなものだろうか。

本稿ではこれらの違いについて、それぞれの機能を検討し、「そして」と「そうして」、また『大辞林』などで置き換え例として取り上げられる「それから」の違いについて言及し、それぞれの意味機能を抽出する。

なお、本稿で取り扱う「そして」「そうして」「それから」は寺村ほか(1990)などで添加の接続詞として扱われるものに限定し、以下の例のような「そうしているうちに」「それからは……」のような接続詞と判断できない例は除外する。

(4) 孫が生まれてからも、行き来は少なかった。孫が可愛くないのか、しょっちゅう会いたくはないのか、とスミヨに問うても、「べつに」などと言っている。そうしているうちに、スミヨは出奔した。(鞆)

(5) じゃあ、そのサドルを盗られた人はどうしたんだろうと思いながら走ってついでいと、洋子さんは角のところまで待っていた。私が追いつくと、それからは私

(38)

の歩くペースに合わせてゆっくりと漕いだ。(猛)

## 2. 辞書の記述と先行研究

### 2. 1. 辞書の意味記述

現行の国語辞典では管見の限り<sup>2</sup>、全ての辞書で「そして」の意味記述は、書き方の違いこそあれ「そうして」と同じであるとされる。辞書の中で唯一、「そして」と「そうして」の違いを記した『新明解国語辞典(第六版)』を一例として取り上げる。

(6) そして：「そうして」の口頭語的表現。

そうして：①そのような<sup>△</sup>事をしたのに引き続いて(手段や方法を取って)以下の事が行われることを表す。[「そして」に比べ、前述の事柄が後述する事柄の原因・理由であることを明示しようという気持を含蓄することが多い]  
②前の表現を受けて、そのままそれに付け加えて述べようとする、話し手の意図を表す。[用例省略、下線筆者]

『新明解国語辞典』では「そうして」の特筆すべき機能について述べているが、「そして」の機能については口頭語的である以外「そうして」と同じであるとしている。しかし、以下の例では「そして」を「そうして」に置き換えることはできない。

(7) 涼み台のそばには、背の低い学生が一人立っている。四角の黒縁眼鏡をかけ、顔も四角であり、足もとに置いてある重そうなジュラルミンケースも四角であった。どこまでも角張ることが彼の信条であるらしい。{そして/?そうして} 奇妙なことに、彼は電車の時刻表を一心不乱に読んでいた。(夜)

この例からも、「そして」と「そうして」は必ずしも同一の意味であるとは言い切れないことがわかる。

### 2. 2. 先行研究

「そして」と「そうして」の違いについて言及したものとして、馬場(2006)が挙げられる。

馬場(2006)では、継起的な用法では「そして」と「そうして」は置き換えることができるが、文の途中で用いられ、直前が動詞述語でない累加的な用法では「そして」を「そうして」に置き換えると不自然になる場合があると指摘して、(8)～(11)を挙げている(馬場2006: pp. 96-97。例文番号は本稿に合わせて変更)。

(8) 道は暗くて、{そして/?そうして} 何も見えなかった。

(9) 空は青く、{そして/?そうして} あくまでも澄み切っている。

(10) 青く、{そして/?そうして} 澄み切った空。

(11) 右手に傘を持ち、{そして/?そうして}、左手にカバンをさげていた。

これらの例から、馬場（2006）は「「そうして」は、「そして」に希薄となった動作性がより色濃く残っているということになる」（p. 97）とまとめている。しかし、ここで述べられる「動作性」がどのようなものであるかについては触れられていない。

また、「そして」と「それから」の違いについてまとめたものとして浜田（1995）が挙げられる。

浜田（1995）では、後続文の表現類型から、「演述型、情意表出型、訴え型、疑問型、感嘆型」に分類し、「そして」は演述型（12）と感嘆型（13）に現れると示して、特殊ケースとして前件と後件が同じ種類の文の場合のみ情意表出型、訴え型、疑問型にも現れるとしている。そして、その性質について（14）のようにまとめている。

（12）再び歩き出しながら、勇は足が石のように固くなってきているのを感じていた。

そして、熊を見たときに勇を襲った、底のない虚脱感のようなものを思い出していた。（浜田1995：p. 575）

（13）空が青いなあ。そして、海がきれいだなあ。（浜田1995：p. 576）

（14）ソシテ……聞き手と話し手の相互交渉を前提としない文脈で現れる（浜田1995：p. 582）

ここで言われる「相互交渉を前提としない文脈」とは、「聞き手からの情報入力を前提としていない」特殊な形であることを示している。

「それから」については、感嘆型以外の全ての文を後件に取ることができ<sup>3</sup>、それは発話行為の外で働く接続詞であるからとしている。そして、その機能を（15）のようにまとめている。

（15）ソレカラ……発話の内部に含まれないで、発話同士を接続する。（浜田1995：p. 582）

浜田の分析は「そして」と「それから」の構文的特徴については詳しいが、その機能についての言及がなされない。また、「そして」と「そうして」の違いについては全く触れられていない。

これらの研究は前後の意味関係よりその機能を抽出してきたが、前件と後件の品詞に着目して「そして」を論じたものとして島田（2005）がある。島田は『太陽コーパス』を用いて、以下のように分類する。

（16）「そして」の分類（島田2005：pp. 197-203、傍点・ルビ省略）

【類型ア】動作性の用言を並べるもの（時間的継起性を有する）

・「《略》と寛三は力なさうに答へた。そして彼はジツと何か考へ込んだ」

【類型イ】状態性の相言的用言を並べるもの（時間的継起性は希薄）

・降ること八千尺の所で、タルナ社は見えた。そして其蕃社の附近には盛に畑を作つてある。こゝにて又しばし休息す。

【類型ウ】相言を並べるもの（叙述的継起性を有する）

(40)

・陸地のある所のそれらの地震帯は極めて規模が狭い。そして小さい。

【類型エ】体言を並べるもの（叙述的継起性を有する）

・北海道の秋。玉蜀黍と豆と馬鈴薯と、そして林檎の熟する北國の秋。

また、これらの分類について、「時間的継起性」と「叙述的継起性」から表1のようにまとめている。

表1 それぞれの類型と二つの「継起性」（島田2005：p. 203）

|          | 「時間的継起性」<br>(事態に備わる先後関係) | 「叙述的継起性」<br>(話し手・書き手にとっての序列) |
|----------|--------------------------|------------------------------|
| ア 動作性の用言 | ○ (あり)                   | × (潜在)                       |
| イ 状態性の用言 | △ (希薄)                   | △ (一部顕在)                     |
| ウ 相言     | × (なし)                   | ○ (顕在)                       |
| エ 体言     | × (なし)                   | ○ (顕在)                       |

これらの研究を踏まえ、以下「そして」「そうして」「それから」の個別の機能を実例から抽出していく。

### 3. 個別検証

#### 3. 1. そして

「そして」にはもちろん時間の前後関係を表すものがあり、そのような例は全て「そうして」「それから」と置き換えられる。

(17) 大島さんが帰ってしまうと僕は部屋に戻り、ステレオ装置のスイッチを入れ、『海辺のカフカ』をターンテーブルに載せる。回転数を45にあわせ、カートリッジの針を落とす。{そして／そうして／それから} 歌詞カードを読みながら、その歌を聴く。(海)

(18) どういうわけか、この子は子供の頃から考古学に興味があって、あの鏡を自分の物にして部屋に飾っているような子でした。{そして／そうして／それから} 高校から奈良の学校に入って、大和女子大でも考古学を専攻して、さっさと結婚もして、もう東京のことは忘れてしまったようですのよ」(箸)

(19) 「あの男の、どんな調子のいい言い逃れも、それらしい言い訳も、理屈だらけの弁解も、木っ端みじんに粉碎できるだけの証拠を集めてください。{そして／そうして／それから}、彼を捕まえてください」(模)

これらの例に共通して言えることは、前件の行為があり、その行為の後に後件が行われることを意味している点である。この性質は「それから」に特筆すべきものであるので、3. 3. で詳しく述べるので、ここでは言及を避ける。

以下、「そして」と「そうして」が置き換えられる例を見ていく。

(20) 私は古本市に隠された栄光の一冊を見つけようという魂胆を放棄することにした。{そして／そうして} 私に馴染みの深いものだけを眺めて歩くことにした。

(夜)

(21) 天秤棒の両側に桶を吊ると肩に担ぎ、そのまま自ら歩いて腰のあたりまで海に浸り、塩水を汲んで戻っては鍋に入れる。{そうして／そして} 何度も往復して鍋のドラム缶をいっぱいになると火を点けた。(精)

(22) カタカナを漢字に置き換え、{そして／そうして} それに類似した名前も考える。(天)

これらの例は馬場(2006)の述べる「継起的な用法」であり、やはりこの用法においては「そうして」と置き換えられるようである。では、累加的用法ではどうだろうか。

(23) 陳列されている商品はどれも見ているだけで胸がときめく。{そして／?そうして} 値段が高い。さすがは高所得国だ。(ア)

(24) 「懲りない子供ですね」「子供は、たいがい懲りないから」「そうですね、{そして／?そうして}、ワタクシも懲りない質みたいです」(セ)

(25) ソファに座るまえに部屋の反対側をざっと目に映しこんだ。そちらは仕事場のようだった。テーブル下にはタワー型のコンピュータ本体が見えた。モデムにつながる電話回線はきれいに整理して束ねられていた。{そして／?そうして}、たぶん老人用だろう黒い祭壇のような巨大な木のデスクが奥にどっしりと腰を据えている。(波)

これらの例は馬場(2006)で累加的用法とされるものである。(23)は商品について「見ていて胸がときめく」と「値段が高い」という二つの評価を、(24)は懲りない人間ということで子供と自分を並べている。(25)では、仕事場の様子にデスクの情報を付け加えている。どれも英語ならばandであらわされるものである。これらの例では「そうして」と置き換えると不自然となる。

以上、「そして」には累加的用法のみ「そうして」と置き換えられないということを確認した。では、「そして」独自の機能とはどのようなものであろうか。

(26) 僕が最初に見るのは、チェ・ヨンス。{そして／そうして／それから}、サンドロですね。蹴るボールも、ライナー性のボールを蹴るようにしています。(サッカーマガジンインタビュー)

(26)で「そうして」「それから」を用いると、チェ・ヨンスを見た後でサンドロを見るということになる。また「そして」の場合、そのような意味のほか、チェ・ヨンスとサンドロを見るという意味も現れる。これは継起的な読みと累加的な読みの両方が可能な文脈だから複数の解釈が可能となるのである。それでは以下の例ではどうだろうか。

(27) 先輩から電話があり、李白さんの快気祝いへ行く前に、喫茶店で珈琲を飲もう

(42)

と誘われたのです。{そして/?そうして} 私はそういう行事に誘われたのは初めてのことなのです。これは一大事。(夜、一部改変)

(27') 先輩から電話があり、李白さんの快気祝いへ行く前に、喫茶店で珈琲を飲んでその後古本屋に行こうと誘われたのです。{/?そして/?そうして} 私はそういう行事に誘われたのは初めてのことなのです。これは一大事。

(28) [昔話の最後で] {そうして/?そして} 二人はいつまでも幸せに暮らしました。  
(= (3))

(27') では、累加的用法の (27) と異なり「コーヒーを飲む」と「古本屋に行く」という2つの情報があり、その順序が「その後」で明示されている。このようにすると許容度は落ちる。また、(28) では「そして/?そして」で受けるものはそれまでの物語の内容である。このように情報が複数ある場合、また全体を受ける場合「そして」は用いると不自然になることが多い。以下のように与えられる情報が一つである場合、「そして」は許容される。

(29) 彼は なぜ会社が自分に給料を払ってくれるのかを常に意識している。{そして/?そうして} 自分の給料の妨げになるものに対しては全力で立ち向かってくる。それが欧米人なのだ。(ア)

(30) 服を入れるための古風なチェストがある。簡単な台所がある。カウンターがあり、小さなガス台がひとつ、{そして/?そうして} 流し台がある。でも水道はない。(海)

(29) では「給料を払う相手を意識する」という情報に「給料の妨げに対して立ち向かう」という文を接続し、「給料」という前文の情報を受けて後件に展開している。そして (30) では部屋にあるものを個別に列挙した後、最後に「流し台」を取り上げて、列挙の情報がここで終わることを表している。(30) の例はやや翻訳調であるが、ここでも前件までの「部屋にあるもの」の個別紹介がこれで最後となることを示していると解釈することができる。

ここから、「そして」は、前文の一つの情報を受けて、後件に展開するマーカーであると見ることができる。

### 3. 2. そうして

「そして」の例を確認すると、指示語「そう」+「する」の用例が多く現れる。

(31) 「誰かが造った舞台があったけど、誰も使っていないし、男の人が一人座ってるから、私もそこに座ることにしました。そしてぼんやりしていたら、林檎の雨が降ってきました」(夜)

(32) 私は大の字型に凝然としたまま、瞼を一パイに見開いた。そして眼の球だけをグルリグルリと上下左右に廻転さしてみた。(ド)

(31) では「そこに座る」ことを行い、その状態のままぼんやりしていたことを表し、(32) では「瞼を一パイに見開」き、その状態で眼球を回転させたことを表している。このような例は「そのようにして」「その状態で」などと置き換えることができることから、「そう」の機能であるとし、本稿では除外して考察を行う。

馬場 (2006) では、「そして」の用法に継続的用法と累加的用法の二種があることを指摘している。3. 1. でみたとおり、継続的用法では「そして」と「そして」の意味の違いはやはり見いだせない。

(33) 「大学に住み着いていたのでは、勉強する以外、やることはありませんからね。

{そして/そして}、わりと早い時期に主任教授の助手にしてもらい、講師の代理ぐらいは務まるようになったし、研究や論文書きにも手をつける余裕ができたということです」(箸)

(34) 観客は興奮し、拍手は五分以上鳴りやまなかった。一人残らず立ち上がってこの偉大な音楽家に敬意を表した。{そして/そして}、終わらない拍手に応じて彼女が最後に弾いたのがバッハ&グノーの「アヴェ・マリア」であった。(精)

(35) 私は布団を頭まで引き上げて丸くなり、自分で自分の身体を抱いた。抱いてくれる者も、抱いてやる者もないがゆえのやむにやまれぬ自給自足である。{そして/そして} 彼女のことを考えた。(夜)

「そして」の主な特徴として、(28) で取り上げたようにそれまでのコンテクストをとりまとめて展開する機能がある。以下、そのような例を見ていく。

(36) きちんと就職した同世代の仲間から取り残されて、いよいよきつくなる下り坂をひりひりと足の裏で感じながら、それでも自分は特別なんだと心のどこかで信じていた。オオカミどころか丸々と太ったいいカモだ。社会人一年目ののどかな春を、{そして/そして} おれは中途半端なパチプロとして迎えていた。

(37) 幼い子はうつらうつらして、ぽっかりと目を開けては母親の顔を見つけ、安心してまた眠り、また起きては母親を探す。{そして/?そして} 真夜中を過ぎたころ、子供のベッドに頭を伏せて眠り込んでいた母親は、小さな手で袖を引っ張られて目を覚ました。(模)

(36) ではそれまでいかに社会に反発していたかという内容を取りまとめ、その結果後件のような事態になったことを表している。(37) は前件のような動作が行われていたが、後件では場面が転換している。このように、「そして」の主たる特徴として、前件のコンテクストを全て受けて、後件が展開されることを表すことが挙げられる。

また、「そして」と置き換えられるが、置き換えることで意味の相違が現れるものもある。

(38) それから私と紀子さんは「おじや」をこしらえることにして、パンツ総番長は積み上がったお見舞いの品の片づけをしました。{そして/そして} 四人でお

(44)

じやを食べながら、秋の学園祭の騒動を懐かしく思い起こしてお喋りをしました。(夜)

(39) カタカナを漢字に置き換え、そしてそれに類似した名前も考える。暇をみでは清水がリストアップしているのだが、似通った名前というのは予想外に多いもので拡大解釈をするとその数はかなりのものになる。{そうして/そして} 書き出された名前のリストに桑田も時々目を通してているが、これまでのところ特にピンとくるような名前にはぶつかっていない。(天)

(38) の場合、「そうして」を用いると、それぞれの行為を終えてということになり、「そして」を用いると単に前後関係を表すものとなる。また (39) では「そうして」では「苦勞してリストアップした名前」という解釈が生まれるが、「そして」では単に文をつないで展開を表すことになる。このように、前件をとりまとめる「そうして」で、「そして」も用いることができる場合、「そして」は単なる前後の関係を表すことになる。このような「そして」の機能は、前件の一つの情報を受けて後件に展開するということであるから、3. 1. で取り上げた機能に通じる。

以上から、「そうして」の機能は、「前件のコンテキストをとりまとめて、後件に展開する」とまとめることができる。(40) はその典型例である。

(40) そういう若き日の罪の意識が、小池にあたかも禁欲主義者のような学問ひと筋の生きざまを選ばせた。そうして後半生はまさしく、自分らしい真っ当な道を歩んできたつもりであった。(箸)

ここでは「前半生」をとりまとめ、後件の「後半生」に展開している。このような機能は佐久間他(1997)で取り上げられている指示表現の「まとめる関係」であると言えるだろう。

### 3. 3. それから

いくつかの辞書では「そうして」の置き換えとして「それから」を挙げているが、「それから」で置き換えられる場合はどのような場合であろうか。

「それから」が表すものは時間の前後関係と累加的用法である。(41) (42) が時間の前後関係を表し、(43) (44) が累加の例である。

(41) 「電話でもかかってくることになっているの？」速まる鼓動を察知されないように、いや、と微笑み交じりの低い声ではぐらかす。それから観念して枕に顔を押しつけ、腹が減っただけだ、と口にした。(サ)

(42) 同僚がついて来る様子のないことを確かめてから、手洗いに入って用を足し、それからいねいに手を洗った。(セ)

(43) 彼女はサイゴンで幼なじみでした。彼女もポート・ピープルでアメリカに渡ってね。今国籍はアメリカです。それから僕の弟は今、京都大学で物理学を勉強し



ています。(ア)

(44) 「何度にも分けて売買することで、株価の平均値を有利にし、一点での勝負でなく、時間軸のなかで線の勝負ができるようにする。基本中の基本だ。それから分割投資にはもうひとつ大切なメリットがある。」(波)

(41) (42) の例では「そして」で置き換えられるが、「そして」との置き換えは(41)ではできるが(42)では若干許容度が落ちる。これらの時間の前後関係を表す例は全て「その後で」と置き換えられるのが特徴である。

(43) (44) では累加的用法であるため「そして」とは置き換えられないが、(42)では「そして」との置き換えにも若干の違和感がある。以下詳細に検討していく。

まず、時間用法について、3. 1. でも取り上げたが、「そして」「そして」の両方を取り上げることができるが、「そして」「そして」が許容されない例もある。

(45) 「なるほど……もしそれが事実なら、お気の毒な弥一さん、ということになりますね。弥一さんは、失恋して、{それから／そして／そして} どうしたのでしょうか?……」(箸)

(46) 私は中央食堂でお昼ご飯をもりもり食べてから時計台前へ行き、樋口さんと待ち合わせました。{それから／そして／?そして} バスに乗って四条河原町へ出かけたのです。(夜)

(45) では「失恋した後で」ということであり「そして」が許容されるが、その場合の「そして」は(31) (32) で見た、指示語「そして」+「する」の形式となる。つまり、前件と後件の対象は「失恋」というものであり、同一のものとなる。(46) のように前件では「待ち合わせ」で後件では「バスで移動」というように、前件と後件で対象が変わるときには「そして」は用いることができない。

累加的用法では「そして」を用いることができないことは見てきたが、累加的用法の「そして」との違いはどこにあるのだろうか。

(47) キーパーとしては、フィード、{それから／そして} 守備の裏のスペースを消したりと、いまのキーパーに求められる当たり前の要素ではあるんだけど、実は自分のあまり得意ではない部分だったりして。(サッカーマガジンインタビュー)

(48) 「何度にも分けて売買することで、株価の平均値を有利にし、一点での勝負でなく、時間軸のなかで線の勝負ができるようにする。基本中の基本だ。{それから／そして} 分割投資にはもうひとつ大切なメリットがある。」(＝ (38))

(49) 「では具体的には、私どもは何をしたらよいのでしょうか?」「セミナーをやってもらいたい。{それから／?そして} 日本で研修生を受け入れてほしい」(ア)

(50) ちくわぶと糸こんにゃくを、{それから／?そして} 大根をこっちにも一つね。

(セ)

これらは全て累加的用法であり、「それから」の機能に差はないが、前後の文脈が異な

(46)

るため、「そして」の許容度に差が生じている。(47)では「フィード」と「スペースを消す」というゴールキーパーの技術の中に含まれるが、技術的には別のことであるから「そして」が許容される。(48)では「何度も分けて売買すること」から「分割投資のメリット」へと別の話題に転換されることが想起されるため「そして」を用いることができる。しかし、(49)は前件では「セミナーを開く」、後件では「日本で研修生を受け入れる」と、一見別の事態であるが、「仕事の内容」の範囲から出てないことから、前件の一つの話題を受けそれを展開する「そして」は不自然である。(50)は一連の注文の中であるから「そして」は用いることができない。ここから、累加的用法の「それから」には別の話題に転換する機能がなことがわかる。

以上、「そして」の機能は二つあるが、そこに共通している機能として、「時間を前後して文を接続させる」ことが抽出される。(49)(50)で「そして」が成立しないのは、ここで述べられることが前文に追加されているだけで、そこから新しい展開が想起されないからである。

最後に「そして」の置き換えで「それから」が取り上げられる点について言及する。国語辞典で「そして」と「それから」が同一の意味で置かれるのは、上記の時間の前後関係の時に置き換えられるからである。しかしこの置き換えは「そして」についても「それから」についても部分的なものであるとすることができるだろう。そして、「それから」の機能はある時間の前後関係を表すものであるが、その前後関係を「前件を受けて後件に展開する」という「そして」の機能の中に時間まで含めるものがあるため、置き換えができるのである。「そして」の置き換えとして「それから」を掲載する場合、「そして」の継起的用法の中の更に一部のみを取り上げていると言わざるを得ないだろう。

#### 4. まとめ

以上のように「そして・そして・それから」を概観してきた。まとめると表2のようになる。

表2 「そして」「そして」「それから」の機能と置き換え

|      | 本質                       | 用法 | 置き換え   |
|------|--------------------------|----|--------|
| そして  | 前文の一つの情報を受けて、後件に展開する     | 継続 | 「そして」○ |
|      |                          | 累加 | ×      |
| そして  | 前件のコンテキストをとりまとめて、後件に展開する | 継続 | 「そして」○ |
|      |                          | 累加 | ×      |
| それから | 時間を前後して文を接続させる           | 時間 | 「そして」○ |
|      |                          | 累加 | ×      |

表を見ると、「そして」「そうして」「それから」にはそれぞれの本質があるが、その用法については、若干の重複が見られる。そのため、置き換えが可能となるものもあるが、それとは別にそれぞれ独自の機能を持ち、置き換えることができないものもある。また、「それから」の置き換えについては時間の連続を継続用法と解釈することによって「そして」と置き換えられるが、厳密に見ると、その中には違いをみることができる。また「そして」の成立は「そうして」からの派生であることは間違いないが、現代語においては若干の分化が起こっていると見ることができるだろう。

累加的用法においてはそれぞれ独自の用法を持ち、置き換えはできない。しかし、その他の用法では置き換えは可能であるが、その置き換えはあくまで「そして」との置き換えだけである。「そうして—それから」が置き換えられる例は先にいくつか見てきたが、それは「そう+する」や「それ+から」と解釈できる場合のみであり、接続詞という条件の範疇では置き換えはできないのである。

残された問題として、「そうして」から派生して生じた「そして」が、いつから意味機能を分化したのかがある。今後の課題としたい。

## 付記

本稿は第166回青葉ことばの会（2010. 3 学習院大学）の口頭発表をもとに加筆修正したものである。発表時にご意見、ご指摘いただきました先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

また、長嶋善郎先生には学部時代より授業を履修し、博士前期課程2年時から指導教授としてご指導いただきました。退官おめでとうございます。文字通り「不肖の弟子」ですが、先生の教えを胸に今後精進していきたいと存じます。

## 用例〔（ ）内は例文での略称〕

- ・石田衣良『波の上の魔術師』（波）・内田康夫『箸墓幻想』（箸）・川上弘美『センセイの鞆』（セ）・黒木亮『アジアの隼』（ア）・さだまさし『精霊流し』（精）・白川道『天国への階段』（天）・辻仁成『サヨナライツカ』（サ）・長嶋有『猛スピードで母は』（猛）・宮部みゆき『模倣犯』（模）・村上春樹『海辺のカフカ』（海）・森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』（夜）・夢野久作『ドグラ・マグラ』（ド）
- ・何も表記がないものは作例である。

## 参考文献

- ・佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一編（1997）『文章・談話のしくみ』おうふう
- ・島田泰子（2005）「「そして」の用法について—用例に基づく分類と分析—」国立国語研究所（編）『雑誌『太陽』による確立期現代語の研究—『太陽コーパス』研究論文

(48)

- 集（国立国語研究所報告）』（pp. 193-211）博文館新社
- ・寺村秀夫・佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一編（1990）『ケーススタディ 日本語の文章・談話』おうふう
  - ・馬場俊臣（2006）『日本語の文連接表現——指示・接続・反復——』おうふう
  - ・浜田麻里（1995）「ソシテとソレデとソレカラ」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（下）—複文・連文編』（pp. 575-583）くろしお出版
  - ・森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店

## 注

- 1 以下の用例で、最初に示したものが原文である。
- 2 参照した国語辞典は、岩波国語辞典（第七版）、新潮現代国語辞典（第二版）、三省堂国語辞典（第六版）、新明解国語辞典（第六版）、明鏡国語辞典、角川必携国語辞典、日本語新辞典、大辞林（第三版）、広辞苑（第六版）、日本国語大辞典（第二版）である。「そして」で意味記述がなされていたものは新潮国語辞典のみであったが、「そうして」との意味の違いは見いだせなかった。また、角川必携国語辞典では「そして」で意味記述をし、「そうして」は小見出しであった。
- 3 ただし、それからの後にポーズを置いて発話した場合は例外としている。本稿でもポーズなどの発話機能との関係は考察の対象外とする。